

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772301467		
法人名	桂商事株式会社		
事業所名	グループホーム阿倍野 (3階)		
所在地	大阪市阿倍野区播磨町1-20-3		
自己評価作成日	平成23年5月30日	評価結果市町村受理日	平成23年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・フロア内はバリアフリーとなっており、廊下も広くとっているため車椅子の方でも移動しやすくなっている。
 ・アイランドキッチンになっているため入居者様から炊事の様子が見えやすく、十分な広さもあるため調理や片付けなども参加しやすい。
 ・リビングを中心に居室が周りにあるため、入居者様の見守りがしやすい。
 ・浴室には機械浴が設置されているためADLが低下した方でも入浴が容易である。
 ・屋上にはミニキッチンとトイレが完備されている。広さも十分にあるため様々な行事を行うことが出来る。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772301467&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年7月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「のんびりと気持ち安らぐ私人家」と目標を掲げ、利用者一人ひとりのペースに合わせた、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいます。利用者が車いすや重度になっても暮らし続けられるよう看取りの支援にも積極的に取り組み、利用者の体への負担が少なく入浴できるよう機械浴の設置があり、職員の負担の軽減にも繋がっています。アイランドキッチンでは、利用者は職員と一緒に役割を持って出来る事に携わり、一緒に食し、後片付けを共にしながら会話が弾む場所となっています。また、屋上には緑が茂り、キッチンやテーブルなどが整備され、利用者は気分転換に外気浴を楽しんだり、様々な行事に家族を招いて一緒に楽しんでいます。職員は恵まれたハード面を活かしながら、利用者が閉塞感を持たれることが無いよう工夫しながら支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各フロア一玄関に掲示している。また、職員で考えた標語の「気持ち安らぐあたしん家」をフロアの見える位置に貼り、それをモットーに日々の介護を行っている。	玄関には会社の理念や方針が掲げられ、それを基に職員間で話し合い「のんびりと気持ち安らぐ私人家」をモットーに支援しています。入居者の生活がその人らしくあるように、入居者のペースに合わせた支援を心がけ、フロア会議で皆で振り返り、入居者が安らげる工夫を考えながら理念の実践に取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はなく、挨拶程度であるが、年に数回近隣の保育園、幼稚園の訪問がある。	地域の保育園や幼稚園からの子どもたちの訪問を受け交流しています。ホームの夏祭りの招待状をポスターにして掲示したり、案内を地域に出すなど働きかけています。また、地域の帝塚山音楽祭に入居者と参加したり、散歩の際に近隣の方と挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けては活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事、現況の報告をしており、意見があればサービスの向上に繋げられるようにしていく。	運営推進会議は、家族や包括支援センター職員、地域のボランティアなどの出席を得て、不定期に開催されています。ホームの実践状況の報告を行い、メンバーからふれあい喫茶などの地域情報や意見、助言を得ています。出された意見や助言はサービスの向上に活かすよう努力をしています。	ホームの課題を知って頂き、一緒に考えてもらいながら地域に関わるために、運営推進会議は概ね2か月に1回開催されることが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は取れていない。	介護保険の更新時に役所に行った際や、分からない事などがあれば電話で聞いています。また、阿倍野区のグループホームの集まりに区の職員に入って貰えるよう働きかけをしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務マニュアルに身体拘束についての資料をはさんでおり、常時見ることができるようにしている。	マニュアルは常時見やすい場所に置き、職員が気付かずに拘束にあたる言葉かけや対応をする事がないよう心がけています。管理者は新人研修時や毎日の業務の中で意識して声かけや指導をしています。また、エレベーターは安全確保の為にロックしていますが、外出したい方へは可能な限りその思いに寄り添うよう努力しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はないが、虐待などはない。		

グループホーム阿倍野（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などには参加できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約関係は事務で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロア玄関に意見箱の設置や、家族様へ向けたアンケートを実施している。また、面会に来られた際などにもコミュニケーションを取り、気軽に何でも話してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。	毎月家族宛の近況報告書の中で、意見要望等が無い家族に聞いています。面会時にコミュニケーションを図りながら意見要望を聞き、職員会議で話し合い、祭りの開催時期を変更するなど運営に反映しています。また、出された意見や対応は年に2回開催される家族会や運営推進会議で報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や、日々のコミュニケーションから意見を聞き出せるよう努めている。スタッフ用の意見箱も設置されている。	職員が提出した企画書を実施したり、会議では意見や提案が言いやすいように職員が調べて発表する機会を設けるなど、意見を出しやすい雰囲気作りに努めています。人事考課制度を設け、年に2回個人面談を行い、職員一人ひとりの目標の設定や意見要望を聞く機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課表を記入してもらい各自が目標を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会を月に1回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡会に定期的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分にコミュニケーションを取り、信頼関係を築けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様同様、十分にコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の相談は事務が行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活者としての意識を常に持ち、日々の介護に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に近況を報告したり、本人様と一緒に話をしたり何でも話合える関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な方には手紙やはがき、電話等で交流が持てるよう支援している。	入居前から通っていたデイサービスへの送迎や、家族や知人といつでも話せるよう携帯電話での通話を支援しています。友人や知人の面会があり、来てもらい雰囲気づくりを行っています。また、家族の協力を得て経営していた会社に定期的に外出されるなど、以前の生活が継続出来るよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが取りづらい場合は職員が間に入る等配慮している。		

グループホーム阿倍野（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡が途絶えることがほとんどだが、退居後も来訪して下さる家族様もおられる。関係が断ち切れないよう声掛けは行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションから希望・要望等聞き出せるよう努めており、困難な場合も本人本位であるように検討している。	入居前にアセスメントを行い、これまでの生活歴や習慣など多くの情報を得て希望や意向の把握に努めています。入居後は日々の様子をケース記録や「気付きシート」に残して職員間で情報を共有しながら思いが汲み取れるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書類や日常の会話・家族様からの情報等から把握に努め、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体状況・精神状態など日々観察し、様々な状況を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	都度ケアカンファレンスを行い、家族様の要望や本人様の言動。気づきシートをもとに作成している。	担当職員の視点だけでなく、全職員が「気付きシート」を使って今の状態を把握し、カンファレンスを開催して、本人や家族の意向を踏まえた支援の方法を探り介護計画を立てています。基本は3か月に1度、変化があれば随時カンファレンスを開催し、介護計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りノート・気づきシートを活用し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応を心掛けている。		

グループホーム阿倍野（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はできていないが、歌のボランティアに来ていただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近医に受診や訪問診療など個々の希望・疾病にあったかかりつけ医を作り、都度連絡をとれるよう体制作りをしている。	入居時に一人ひとりのかかりつけ医の希望を聞き、個々の方に応じた受診や往診の支援をしています。また、緊急時は看護師に24時間指示を上げる体制を整えると共に、適切な医療を受けられるようかかりつけ医との連携も築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師に健康管理をして頂いており、気軽に日常の相談は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院に入院された場合は担当者から都度連絡がくるような体制になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年度看取り2件あり。早い段階からではないが、かかりつけ医と家族様・事業所で繰り返し話し合いを行い、終末期を過ごしていただいた。	入居時に看取り指針について説明しています。24時間対応の医師に協力を得て、その時を迎えた時には、家族の意向を再確認しながら関係者で繰り返し話し合いを重ね支援しています。職員はターミナルケアを勉強し、管理者や他の職員がいつでも駆け付けられる体制を整え、職員の不安の軽減や他の入居者への配慮にも努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会でも取りあげられており、マニュアル化し常時見れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は築けていない。	年2回、昼間、夜間を想定して避難訓練を行っています。1回は消防署の協力を得て、消火器の使い方や、避難、誘導、通報の指導を受け、万が一に備えています。訓練の案内や報告は運営推進会議にて行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を基本としているが状況に応じて対応している。プライバシーを損ねない対応を心掛けている。	慣れによる言葉の乱れがないか、その方にあつた言葉遣いや対応ができていないかを常に意識しながら支援しています。不適切な対応が無いかわり個別またはフロア会議で話し合い、皆で確認しながら支援しています。また、同性介助や羞恥心への配慮も心がけて支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方については聞き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努力はしているが入浴日や買い物などは予め決まった日になっている。一日の過ごし方は入居者様のペースで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理・美容院に行くようにしている。また、女性の方には行事の時に化粧をして頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には準備や片付けを一緒に行い、食事と一緒にしており、楽しく食事が出来る環境を作っている。	米とぎや盛り付け、下膳、食器洗いなど、職員と一緒に出来ることを行っています。車いすの方は食卓椅子に座り替えて、正しい姿勢で食べやすいように配慮しています。誕生日は個別にケーキを作ってお祝いしたり、また、行事食や出前などを取り入れ、食の楽しみを支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	トロミ食や刻み食・量の調整など一人ひとりに合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人様の能力に合わせ、一部介助や見守り・声掛けを行っている。		

グループホーム阿倍野（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄して頂けるよう、一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方にあった時間にトイレ誘導している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗なく排泄できるよう声かけや誘導をしています。個々のパターンを把握することで、紙パンツから布パンツになった方や、入院時おむつ対応だった方が布パンツに変更になるなど支援の結果が利用者の自信に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、主治医指導のもと下剤の調整を行っている。また、日頃から水分を多く摂って頂いたり、腹部マッサージを行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが4階とは曜日がずれているため、他の日に入って頂くことも可能。順番やタイミングは本人の希望に合わせている。	午前9時半から夕方まで希望に沿って入ってもらっています。ユニット間で入浴日を変える事で、いつでも希望の日時に入浴できるように配慮しています。重度の方にもゆっくり、負担が少なく入浴していただけるよう機械浴も完備しており、利用者の状態に合わせた入浴支援を行っています。気の合った利用者同士で入られたり、ゆずを入れるなど楽しく入って頂けるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態により居室やソファで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認し、理解できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いやレクリエーションへの参加、外出などで気分転換が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望で外出する事はできていない。家族様の協力により遠足に出かけたり、外出されている。	週に一度、家族と外食されたり、医師に会いたいと受診される方や入居前からのデイサービスに出かける方など、個々のニーズに合わせて対応しています。なばなの里や海遊館などへ家族の協力を得ながら外出支援をしています。少人数で花見や外食、散歩や屋上で外気浴など個々の希望に沿って外出支援できるよう取り組んでいます。	

グループホーム阿倍野（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で預かっている。個人で少額の現金を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて携帯電話を持って頂いたり、手紙やはがきのやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるような飾り付けをしている。また心地よく過ごして頂けるように室温などにも気をつけている。	広いリビングには椅子やソファ、ベンチが配置され、入居者が思い思いの場所で寛いで過ごせるよう配慮しています。壁には皆で作った作品が飾られています。また、テレビが見やすいよう採光に配慮しカーテンで調節しています。自宅で過ごすように食事作りの匂いがする中で、入居者と職員との会話も弾み、居心地の良い空間となるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室前にはベンチがあり、リビングにはテーブル席のほかにソファがあり、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた家具や写真などを置いて頂き、本人様が居心地良く過ごせるようにしている。	居室は和室と洋室があり、入居前の生活スタイルに合わせて選ぶことができ、布団やベッドも好みや生活習慣に合わせて選んでもらっています。居室は馴染みのある家具や時計、生活の道具、写真等が置かれ、安らげる居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、必要な箇所には手すりをつけている。		